

ごあいさつ

日頃より、エコチル調査についてご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

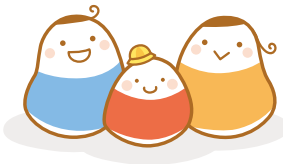
2011年1月末日より、全国15か所、妊婦さん約10万人の登録から始まりましたエコチル調査は、本年で13年目に入りました。全県下で実施されている福島県においては、調査登録出生児の約93%（約12,000人、2023年2月末日現在）が継続参加し、質問票調査にもご協力いただいています。子どもたちは8歳から11歳となり、いよいよ調査の主役となってきました。10歳からは子ども本人から回答をいただく「子どもアンケート」も開始されています。

前回2018年版では、質問票への回答内容のうち、特に保護者の方々の関心が高いと思われる項目を選定し、4歳までの福島県の子どもたちの状況を紹介しました。

今回は、県内の教育関係機関の方々へのアンケート結果を参考に項目を選定し、7歳までの状況をまとめました。現在の福島県の子どもたちの生活の様子、そして、取り巻く環境の一部を垣間見ることができますので、日頃の様々な場面でご活用いただければと存じます。

調査開始以来、子どもたちを取り巻く環境は様々変化しています。開始直後は東日本大震災、最近では新型コロナウイルス感染症の中での生活を強いられています。また、持続可能な社会を目指し、子どもたちはSDGsについても学んでいます。一方、国内外、暗い出来事の多い中、スポーツ選手の活躍などの心躍るニュースもあります。子どもたちは全てをしっかりと受け止め日々成長しています。

参加者の皆様からの質問票への回答は、調査結果から得られる果実の大きさに関わり、さらには、その果実が社会へ還元されていきます。全世界の子どもたちが安心して、そして、健やかに育つことができる環境づくりへのヒントに導くエコチル調査へのご協力を引き続き、よろしくお願いいたします。



2023年3月
エコチル調査福島ユニットセンター